

③ 観覧料

●常設展 (一)内は、団体二十人以上の料金

ア一般・大学生二百五十円(二百円)
イ高校生百五十円(百二十円)

ウ小・中学生百円(八十円)

●企画展「武家の文化」(期間十月十八日から十一月十六日まで)

ア一般・大学生二百円(百五十円)

イ高校生百五十円(百円)

ウ小・中学生百円(五十円)

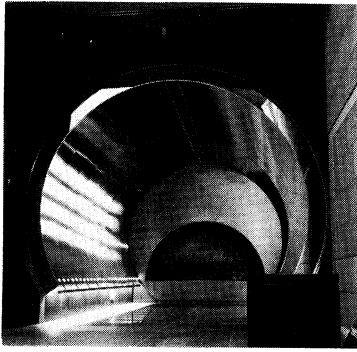
④ その他の行事

開館記念講演会

・十月十九日(日)国際日本文化研究センター室長梅原 猛、
武家の文化関連講演会

・十月二十五日(日)お茶の水女子大学教授坂本 満

※ビデオライブラリー・相談コーナー・ワークショップ・体験学習室については、開館時はいつでも気軽にご利用できます。



入り口付近のタイムトンネル

二、展 示

展示は、資料によって歴史を語ることで、意図や主張がなければなりません。本県は、中央と東北及び北陸との接点にあることから、南・北及び西の文化の融合の役割りを果たしてきました。時代の変わり目には歴史の中心舞台に立ち、各時代を通じて中央に対する資源の供給圏でありました。これらの諸点を歴史の中にクローズアップし、その中で庶民の生活に連続性を持たせながら、本県の歴史の特色を強調するようにしています。

展示は実物資料を中心とし、二十数回に及ぶ学術調査・伝統技術復元調査などで発掘・収集した新資料を多用して構成されています。これら新発見・未公開の資料は、展示の新鮮さをきわ立たせています。

博物館で通史を展示する場合、資料とテーマの制約から近・現代の構成がむずかしく、特に現代はほとんど省略に近い取扱い方をするのが通例です。しかし本館では、近現代を重視する構成をとりました。日本の花形産業(蚕種・養蚕・製糸業)と戦後の社会(高度経済成長以前の自給自足の社会)がその代表で、代燃車(木炭バス)はその象徴です。

展示に臨場感は欠かせません。そのため広いフロアをフルに活用し、主要

展示物となる大型資料は可能な限り一分のスケールとし、展示のストーリー・ライン上に強く印象づけるよう意図しています。

(一) 総合展示

原始・古代・中世・近世・近現代へと、時系列に沿って展開させる通史の展示と、各時代における自然と人間とのかわり合いを「室にまどめて」「自然と人間」のテーマによって構成しています。全体のテーマは次の通りです。

原始

福島最古の人間・氷河時代の生活・最終氷期後半の環境・環境の変化と生業・縄文のムラ・縄文人・信仰と墓地・稲作の開始・再葬の墓

古代

会津大塚山古墳・原山一号墳の主・群集する古墳・ムラのくらし・陸奥国の成立・公民の生活・在地の仏教

中世

阿津賀志山の合戦・神仏習合の世界・好嶋庄の村々・南党と北党・国人一揆・戦国の群雄

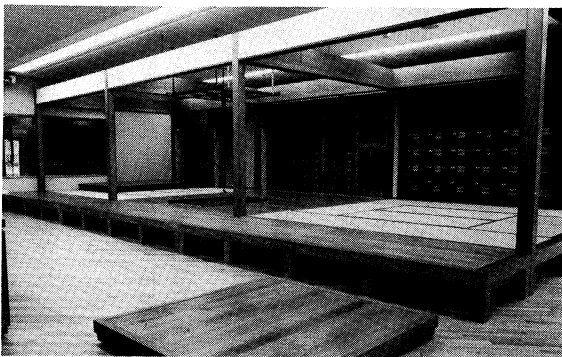
近世

奥羽仕置と諸藩の成立・学問と文化・庶民の信仰・会津農書の世界・町にぎわい・山国の神と人・産業の発達・海のなりわい・ゆれうごく封建社会

近・現代

戊辰戦争・自由民権運動・福島県の成立・安積開拓事・庶民の生活・日本の花形産業・十五年戦争下の生活・戦後の社会・変わりゆく社会

自然と人間



体験実習室